

IUHW

The gazette of the International University of Health and Welfare

第17号

発行：学校法人国際医療福祉大学
編集：広報委員会 TEL 0287-24-3000 内線7121



第2回風花祭開催!!

記事4・5ページ

第2回風花祭を振り返って
昨年、第1回風花祭が大成功に終わり、果たして今年もうまくいくのだろうかと不安をいだきながら準備をしてきました。今年は、ZEROのコンサートや小田晋先生の講演会を開催したり、地域の福祉施設に参加していたりなど新しい企画もあり、実際に風花祭を迎えるまでは、悩みや不安が絶えませんでした。
しかし、当日を迎えてみれば、昨年より多くの方々に風花祭を見に来ていただき、模擬店や講演会も大盛況、コンサートも無事終了。誠に力不足な委員長でありましたが、委員や皆さん全員の協力と盛り上げて大成功を収めることができました。皆さんお疲れさまでした。
大学祭実行委員長
作楽3年 飯島利浩

= 目次 =

出来事	ページ	ボランティア委員会	ページ	言語聴覚障害学科	ページ
学長の日程から	2	国際協力事業団(JICA)の	3	放射線・情報科学科	6
お知らせ	2	ケニア国・コメディカル教育		医療経営管理学科	7
学生室	2	プロジェクトへの協力	3	医療福祉学科	7
図書館利用の皆さんへ	2	義肢装具の国際規格 ISO		語学教育センター	7
通信衛星地球局の学内設置	2	／TC168会議開催される	3	言語聴覚センター	8
懸告	2	風花祭	4、5	16号のクイズの正解	7
国際交流委員会	2	学科・センターだより	6	当選者発表	7
紀要委員会	2	看護学科	6	編集後記	8
情報化委員会	3	理学療法学科	6	リレーエッセイ	8
		作業療法学科	6	IUHWクイズ	8

出来事

◇学長の日程から

- *平成9年10月13日(月)
日本私立看護大学協会第1回あり方検討委員会
- *平成9年10月14日(火)
フランスベッドセミナー；新潟県
- *平成9年10月16日(木)
日本医師会医療政策会議
- *平成9年10月24日(金)
医療関連サービス開発委員会
- *平成9年10月29日(水)
栃木県高等教育連絡協議会；宇都宮市

お知らせ

◇学生室

学生よろず相談スタート！

学生部・学生委員の先生方による「学生よろず相談」が、「国際医療福祉大学の辞書から「悩み」の項を末梢する」という遠大な構想のもと、このほどスタートしました。

学生よろず相談は、毎週火、木曜日に管理棟健康管理室（警備員室ならび）で開設。学習や就職のことから友人関係、恋、生活上の悩みまで、読んで字の如く、この世の悩みという悩みすべてを対象に、各学科選りすぐりの先生方が相談を受け付けます。

本学では、これまで三浦四郎衛先生による「精神保健相談室」を開設してきており、今後も両相談室を並行して開設していくことによって、相談ごとの間口が広がるものと期待しています。なお、各回の担当者等は学内掲示をご覧ください。

◇図書館利用の皆さんへ

図書館所蔵の医学中央雑誌・MEDLINEのCD-ROM版による論文検索の利用者が増加し、プリントアウト時の支障が原因で混雑することが多くなりました。少しでも効率をよくするためにレーザープリンタを購入する予定です。今後にご期待下さい。

現在午後6時30分より、一部閲覧スペースを制限しております。省エネ活動の一端です。なお、飲食・喫煙についての規制厳守にもご協力下さいませようお願いいたします。

◇通信衛星地球局の学内設置

中国リハビリテーションセンターとの衛星通信に利用
このほど、本学に通信衛星の地球局が設置されました。この地球局は郵政省の関連法人である通信・放送機構が、本学と中国リハビリテーションセンターの間で実施する遠隔リハビリテーションシステムの研究開

発に供するため設置したもので、「那須リサーチセンター」の名称で本学と通信機器メーカーによる共同研究の場となります。J棟脇に設置された衛星アンテナは直径4.5mで、県下の大学では初めて設置されます。

本学研究スタッフとして杉原作業療法学科長、井原放射線・情報科学科教授がそれぞれ「リサーチセンター」のリーダー、サブリーダーに就任し、関係各学科の協働により平成12年度までの3年余りのプロジェクトとしてスタートしますが、日中友好の架け橋として、またリハビリテーション分野の最新の通信手段の研究開発案件として成果が期待されています。

報 告

◇国際交流委員会

- 1) ベトナム国チョーライ病院での国際ボランティア活動の報告会が、10月15日(水)18時からE101教室で開催され、学長はじめ多くの教職員、学生の出席を得ました。報告の学生は病院長から贈られた民族衣装のアオザイを着て、病院、活動内容、ベトナムの文化、感想などを、写真やビデオを用いて、詳細に報告しました。
- 2) 第2回風花祭には「ベトナム展」をE204教室で行い、多くの方々が来場して質問をしたり、アオザイの試着を楽しみました。
- 3) ボランティア活動についての新聞記事が、9月30日(火)読売新聞と10月17日(金)朝日新聞に掲載されました。
- 4) 県地域留学生交流推進協議会主催「国際交流スポーツ交歓会」が10月4日(土)白鷲大学で開催され、PT1年霍君が参加しました。
- 5) 第3回留学生懇親会が10月29日(水)レストランで行われ、ホストファミリー、教員、委員と歓談しました。
- 6) 委員会開催 7月8日、9月25日、10月14日
(田中美子)

◇紀要委員会

第6回紀要委員会を9月30日(火)に、第7回を10月28日(火)に開催いたしました。ここ数回の委員会の議題は紀要第2巻の刊行を年度内に実現すべく、論文の審査、著者修正、原稿の完成を急ぎ、一日でも早く印刷に持ち込める形にしたいということでありました。今月ようやく先が見えてきました。

紀要第3巻については、原稿の募集を行いまして、締め切りが10月31日ということでご執筆の先生方には目下奮闘中というところではありますが、委員会としては年度内の刊行を目指しておりますので、何卒ご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

しかしながら論文を完成させるということはどなた

もご経験のとおり容易ではありません。何故ならそれは創造の作業だからです。多量のエネルギーを必要といたします。この作業を順調に進めるためには、ある程度自己暗示をかけ、空想の世界を散歩し、自分自身を興奮状態に置く必要があります。そうしないと筆が進みません。今日では筆とは言いがたいところですが、ただでさえご多忙の先生方ですから放っておけば脱稿がいつになるか分かりません。一つ素直な気持ちになって筆を進めていただきたいと思います。

(野原功全)

◇情報化委員会

平成9年10月20日(月)に第7回の情報化委員会を開催し、本学のホームページのあり方について活発な議論を行いました。本学ホームページを全国に向けて発信してから数ヶ月が経過しましたが、その反応は不確かで、またどうあるべきかという議論も行われておりませんでした。今回は、まず、本学ホームページは必要か否か、必要であったらどのような情報を提供するのがよいか、またそのターゲットは、情報を提供することによるメリットは、などについて議論を行い、必要性・提供情報・ターゲット・メリットなどを明確化することに努めました。次回は、ホームページの具体的な内容、各学科でのホームページ作成などについて検討の予定です。学内LANシステムに関しては、学外からのメール利用、掲示板システム、図書検索システムについて、情報システム室が中心となり、整備を進めています。

(権沢一之)

◇ボランティア委員会

委員会は、学生の自発的なボランティア活動への参加を側面から支援することを申し合せて情報交換を行っています。夏休みから秋にかけて①宇都宮市内で開催されたポップコーン公演に10名、②児童相談所主催の「不登校児童キャンプ」に2名、③保健所の「難病患者生活相談会」に7名、④金田南部地区の配食ボランティアに2名、⑤共同募金会の街頭募金に18名など、地域からの要請に応じて、さまざまなボランティアへの参加をコーディネートしました。将来、学内にボランティアコーナー設置をめざして活動しています。

(鈴木五郎)



◇国際協力事業団 (Japan International Cooperation Agency-JICA) のケニア国・コメディカル教育プロジェクトへの協力

アフリカ東部赤道直下のケニアには、首都ナイロビほか22の都市に合計6,000人の学生を擁する国立のコメディカル・スタッフ養成カレッジ (Kenya Medical Training College) があります。近年における国家財政不振のため、ケニア政府は、カレッジ施設の老朽化、教育機材不足、教育レベル低下等に対して必要な対応策を取れず、日本政府に対して資金協力および技術協力を要請してきました。これに対し、日本政府の発展途上国への技術協力担当機関であるJICAは、このプロジェクトの共同実施機関として、本学と厚生省・国立公衆衛生院に協力を依頼してきました。この依頼に対し、本学は先ず本年8月に臨床医学センター山崎統四郎教授と国際協力部長兼医療福祉学科教授長谷川豊をケニアに派遣、9月3日に理事長、学長、関係役員および関係学科代表が出席してその報告を聞き、大学として可能な範囲で協力することが決定されました。

JICAは、目下、来年1月に派遣される予定の本プロジェクト実施協議調査団がケニア側と調印する協力の覚書の内容を詰めている所です。皆様方のご理解、ご協力をお願い申し上げます。(長谷川豊)

◇義肢装具の国際規格 ISO

(International Organization for Standardization) /TC168会議開催される 一大田原市で初の国際会議—

ISOは各種の国際規格を制定する組織ですが、去る10月10日から12日にかけて、TC168会議が大学で開催されました。日本での開催は初めてで、「国際会議」が大田原で開催されるのも初めてとのことでした。会議は2グループに分かれて円卓形式で進められ(写真)、義足使用者の標準体重(100kg体重)に軽量級を加えるなど、多くの成果が上がりました。国外参加者28名を含め、約50名の会議となりました。2日目にはレセプションも開催され、紀伊國献三学部長、千保一夫市長などにも参加していただき、国際親善にも役だったと思います。(田中 繁)





吹奏学部

「野外特設」で得たもの

2日間わたる今年で2回目の「野外特設」の演奏会も無事終わりました。私たち吹奏楽部は夏休みが始まると同時に今回の「野外特設」に向けて練習をしてきました。初めての夏合宿、連日連夜の練習を経て前日は夜遅くにまで及んだ総合リハーサル。大学祭でのステージは私たちの1年間の活動の中でも大きなヤマの1つだったので、こうして無事終わったことにみんな安堵感も溢れる様子でした。部の創設からもうすぐ2年半が経ちます。早いもので、創設に関わったメンバーもまもなく引退の時期。今回の「野外特設」は特に3年諸氏にとっては意味深く貴重なものとなったでしょう。大学祭当日皆さんにお配りしたパンフレットにも記したように、今年の私たちのモットーは「楽しめる音楽」を目指したこと。各々の感じ方は違っても、きっとみんなが楽しんだらう安堵感も、私たちの音楽が「楽しめる音楽」に少し近づいたからだと思っています。3回目の「野外特設」までに、そこからどれだけ成長できるか、楽しみです。

(観学1年 遠藤浩一)



卓球部 バナナチョコ屋台

水泳部

ホットケーキの行方はいかに?

「電源がない!」から始まった2日間、わが水泳部は様々な人の協力と物品提供で無事終了しました。

1本100円という今どきバリューな価格と、絶対に自分では作らないような味の結果からか、助成金もなく、部費の徴収もしなかったわが部でも?万円の利益をあげることができました。ホットケーキを買ってくださったみなさん、ほんとうにありがとうございました。

今度は水泳部の活動場所、大田原市屋内温水プールに遊びに来て下さい。あったかいプールで一緒に泳ぎましょう。(作業3年 服部貴子)



ハンドベル部

発見と成長

ぜひがでる何の観客、大きな拍手と歓声、そして、アンコール……。予想外の出来事に嬉しさと驚きは多人でした。そして私たちはこのハンドベル演奏会において「演奏とは演奏者個人の楽しむものではない。すべての人が共に楽しむものである。」ということに気付きました。自己満足という小さな世界から新たな世界を発見したのです。この発見が私たちに大きく成長させてくれたと思います。共に楽しめる演奏のため、これからも練習を重ねていきます。聴きにきて下さった方々、本当にありがとうございました。(言語3年 神前聖那)



心理学研究部

Alice In Wonderland

不思議の国のアリスと同じ道を進もうー

時計を持った白兎や、トランプの兵士を引き連れたハートの女王、アリス等、物語の登場人物達が、「洞穴」や「小さくなる部屋」、「愛でこらぬお茶の会」にお客様をご案内して、様々な心理実験・テスト(鏡映描写実験や重さの感覚テスト等)を体験して頂きました。今年は展示内容だけでなく、展示の方法、教室や座席の飾り付け、BGM、衣装、メイクにまで凝った甲斐があつて大好評を博し、大勢の方々に来て頂きました。不思議の国を訪れて下さった方、文えて下さった方、本当にどうもありがとうございました。(言語聴覚3年 福川文子)

第2回 風



ジャズダンス部

国際医療福祉サークル

大学祭でサークルが得たもの

我々国際医療福祉サークルは、約10人の少ない部員数で模擬店を出しました。各人の負担も大きかったものの、部員1人1人が、自分の分担をしっかりとこなしたおかげで思った以上の成果を残しました。部員数が少ないという部員各人の自覚がかえって自分の分担の仕事の重みを感じつつ取り組むことができたのだと思います。できてまだ浅いサークルなので、この大学祭への取り組みは大変でしたが、これを通して我々サークルの団結力は、以前にも増して高まったように思います。

(放・情2年 阿部克弘)



園芸部

大学イモ?の出来具合は?

園芸部は昨年の野菜販売に加え、大学イモ、コーヒー、胡蝶蘭の販売を行いました。どれもなかなかの評判でひと安心です。大学イモのサマイモは文字通り大学で部員が片耕こめて育てた(?)ものを使用しました。野菜はJAなの、胡蝶蘭は地元の間農家、垣村博之さんに支援していただき、とても感謝しています。

また、それほど多くない部員で、1つのことをやり抜いたことで、部員が精進し、私達にとって充実した学園祭となりました。(作業3年 西山小織)



合唱部

大学祭での発表を終えて

わたしたち合唱部は、25日カフェテリアの1階で発表しました。今年も、大田京市混声合唱団と交えての発表会となりました。合唱部と大田京市混声合唱団とは、曲の傾向が全く異なるため合同で歌うということではできないのですが、混声合唱団は「ふる里の四季」など合唱曲らしいものを選曲し、私達合唱部は「STAND BY ME」などよく知られ、リズムにのれるような曲を選びました。お互いが発表しているのを見て、これからの練習への意欲が新たに湧いてきた気がします。(看護2年 尾藤華妃)



教育後援会

教育後援会員のつどい

国際医療福祉大学後援会の「会日のつどい」が26日午後行われました。全国各地から学生の父母ら約300人が出席。会々大学の運営について活発に討論したほか、小田香先生の神戸小学生殺害事件をテーマとした講演に耳を傾けました。

日(土)、26日(日)開催

祭



写真部

写真展示とカフェバーと

写真部の数少ない発表の場である大学祭で、写真展示をみてアンケートに協力して下さいました7歳のお嬢ちゃん上は80歳のおじいちゃままで、約1,000人にわたる貴重なご意見ご感想、誠にありがとうございました。写真部はこれからもがんばります。(理学2年 池井智文)



人形劇サークルチャップ
僕達の文化祭

大学祭も2回目を迎え、大学祭を、より良いものにするため、10月に入って、ほとんどの日を、そのための準備に費やしました。人形劇サークルチャップは、人形劇と、笑劇、競車大会のフリーマーケットを行いました。25、26日共、例年のごとく少し寒かったものの、よく晴れ、足を運んで下さった人も多く、大成功でした。人形劇で、人形作りから音でがんばり、子供達に喜んでもらえたこと、又、フリーマーケットでも、皆で協力して完売できたことなど、どれも大変思い出に残ります。(理学3年 松岡文三)



少林寺拳法部

大成功！学園祭by少林寺拳法部

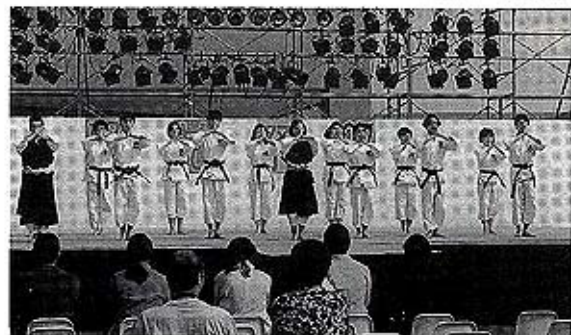
少林寺拳法部は、26日の演目にわりだんご汁屋さんを出店、そしてステージ発表を行いました。今年も部員も増え大会にも数多く出場している中で学園祭の為昨年より良いものをと意気込んでいました。26日のステージ発表には地元羽根大田支部の少年拳士も応援に駆けつけ大変盛り上がり、「かわいい」と賞が上がり、私達ら大田支部のステージ発表も迫力あるものが出揃って大成功！だんご汁屋も大好評でした。少林寺拳法部はまだ部員募集中です。練習は月、木で体育館です。興味ある人！見に来て下さい。(作業3年 竹内利江)

ベストカップル大会

ESS

我ら“ESS”大学祭に参加して

我々は、昨年に引き続き販売店を出しました。昨年の準備と後かたづけの事を思うと、見込みしそでしたが、メンバーも一新し段々意気込みが大きくなっていました。大学祭数日前には、音が集り、日程の方法、味付け、費用などを調べるためにpre-cookingを行い、大学祭前日には、「ESSは運動系のサークルだった？」と感じるくらい体力のある人たちの集りであることを知りました。そして、サークルメンバーの仲間意識とまとまり、この演目で今後活動を積極的に楽しくやって行こうと思っています。(看護学科2年 田尻由子)



※写真を提供してくれた写真部のみなさんありがとう。

学科・センターだより

◇看護学科

日本私立看護大学協会主催：第34回看護リフレッシャーコースの研修会を終えて

平成9年11月1日・2日の両日、本学F棟101教室で研修会を開催しました。今回のテーマは「21世紀にはばたく看護実践をめざして」で、延べ人数400余名が参加し、熱心な研修・討論がなされました。

第1日目は、日野原重明会長、本学大谷藤郎学長の挨拶で始まり、続けて会長は「ケアのサイエンスとケアのアートの担い手としての専門職はどう21世紀に展開されるべきであろうか」を、学長は「医療と人権」のテーマで各々講演されました。午後はシンポジウムⅠ「保健・医療・福祉における共働」のテーマで、本学7学科から各1名のシンポジストが各々の立場から共働について発表し討論しました。また、昼休みにハンドベルサークルによる演奏、17時から懇親会があり多くの方々に楽しみと交流を図って頂きました。

第2日目はシンポジウムⅡ「在宅ケアシステム構築事業の体験から得た共働」で、貴重な体験の発表と討論を致しました。午後は希望者による大学見学で全て終了しました。最後に、本会の準備・開催に当り理事長・学長初め教職員・学生の方々にご協力を頂き有難うございました。感謝!! (城ヶ端初子)

◇理学療法学科

衝撃の(?)生理学実習始まる

10月2日より12月11日まで8回に渡って1年生の生理学実習が行われておりますが、前半の4回、蛙の心臓摘出標本の灌流実験のお手伝いをさせていただきました。かなり細くて難しい蛙の心臓摘出のプレパレーションは佐藤先生が行われました。しっかり先生が手につかんでいると思っていた蛙がとび跳ねて思わず声が挙がったり、気分が悪くなる女子学生(一部男子学生も?)がいたり、液漏れを起こしていた摘出心臓が先生の粘り強い修正の結果、完璧に動き始めた時には思わず歓声があがったり、慣れない注射器やピペットを扱ったりなど、おそらく学生にとってはどれも初めての体験だったことでしょう。それにしても摘出された2心房1心室の心臓の生命力のすごさには全員驚かされたに違いありません。有意義な実験をさせてくれた蛙さんにも感謝を。(藤井菜穂子)

◇作業療法学科

最終年次総合実習に向けて

本学科では、就職準備的な意味合いも含め、最終年次臨床実習(総合実習6週間)を学生自身が学びたいと考える施設に見学訪問をし、総合実習受入の可能性があるかないかをうかがうようにという方向ですすすめています。実習受入の可能性がある場合には、その後の手続きを正式な依頼を含め、本学および本学科が主

体となってすすめていくことになっています。この方法は、本学独自の手順であり、また、他大学等の臨床実習の受入とは大きく異なる手順であるため、各施設の反応は様々です。その中で、学生は頑張りました。これまでの学校側の手取り足取り教育から脱皮すべく、少しでも常識ある礼儀正しい社会人に育成すべくこの冒険的試みを、学生は真正面から受けとめて、実践しました。ラブレターを書くように読み手の気持ちを考え、失礼の無いように配慮した文書。返信用封書。返信内容を読んで決めたお願い作戦。電話する時間帯を考慮して、連絡している姿。見学時に、気持ちをうまく伝えられなかったと嘆く姿。などなど、当世学生事情、やればできると確信した、この頃です。

(次号 一期生の苦難はまだまだ続くの巻。)

(谷口敬道)

◇言語聴覚障害学科

去る10月25日(土)と26日(日)は大学祭でした。言語聴覚障害学科でも26日だけでしたが、1・2年生が中心となって展示を行ないました。学生さん手作りの、「きこえのしくみの模型」の展示・説明、クイズラリーなどを行ないました。なかでも特に難しかったのは、「きこえのクイズ」だったようです。国名あてクイズ(3人の出題者それぞれがある国について同時に説明するの聞いて、国の名前を当てる)や、生活の中の音当てクイズ(目覚ましの音、ティッシュを取り出す音、缶を踏みつぶす音などが出題音)に耳をそばだてていました。普段聞いているはずの音なのにわからなかったり、「こんな音だったかな」と思ったり、いかに何気なく音を聞いているか、改めて気づかされたお客さんも多かったのではないのでしょうか。

その他、サークルの出店や、展示、発表でも、他の学科の学生さんとともに、言語の学生さんが活躍していました。授業ではなかなかみられない生き生きとした表情、真剣な表情が、とても印象的でした。皆さん、ごちそうさまでした。そして、お疲れさまでした。(佐々木有紀)

◇放射線・情報科学科

後期から3年生を対象にグループ指導というものを始めました。これは少しでも学生と教員間の距離を縮めようと考え出したものです。3年生が臨床(臨地)実習の関係で二班に分かれましたので、一方が実習に出かけている間に、残りの半数の学生をさらに7グループに分けてそれぞれに教員をつけ、少人数化して指導を行なおうというものです。指導内容は各グループの教員に一任しております。また、全体としては実力試験を実施し、その解答の解説書をグループごとに学生自身が作成するという作業を行ないました。

第2回大学祭が10月25日(土)、26日(日)に開催され、当学科では前年と同じくC棟1階の実験室を開放し、医療機器の実演や放射線に関するクイズなどで楽しん

でもらいました。個別入試相談会では、一人でも多くの人にこの分野の仕事に従事してもらいたいと願いつつ、本学科志望の真剣な顔の受験生に接しました。

大学祭と並行して26日午後に教育後援会の「第1回会員のつどい」が催され、学科別集会では多数の保護者の方から熱心な発言が続き、大学および当学科に寄せられる熱い思いと期待の大きさが伝わってきました。

(野原功全)

◇医療経営管理学科

わが国ではじめての医療経営管理学科の特徴の一つは実学の学習にあり、そのため講義も出来るだけ情報知識の一方的な伝達ではなくディスカッションやケースの討議を重視しています。

前期授業の終了に伴い、後期の開始前に見学実習が行われ、全学生は希望に応じて特定機能病院(大学病院)と一般病院、一般企業の見学を行いました。

獨協医科大学病院、自治医科大学病院、順天堂大学病院、東京医科大学病院、東京女子医科大学病院の特定機能病院では病院のほとんど全部門(霊安室を含む)を見学し説明を受けました。栃木県下の一般病院も見学し、また東芝メディカル工場でのMRI、CT製作の現場についても見学することができました。見学の後大学で1日討論を行なうというスケジュールでしたが、はじめて医療の実態に触れた学生も多く、授業との関りが見えて来たとの感想が寄せられました。2年次、3年次にはより密度の高い実習が計画されています。

(紀伊國敏三)

◇医療福祉学科

国家試験ガイダンス・ゼミ選択ガイダンス

入学から8ヶ月にならんとする11月下旬、未来のソーシャルワーカー誕生に向けて頭を悩ませる機会が設けられました。社会福祉士(国家資格)取得ガイダンスとゼミI(2年時)ガイダンスを受けて、社会福祉士になる夢が具体化しはじめ、同時に試験への不安も現実味をおびてきたのでしたら、この学科行事は成功です。広範な福祉のなかで、どの領域のゼミに進もうか迷いはつきないでしょうが、大いに悩んで下さい。

(田澤 薫)

◇語学教育センター

Sharing

Last October 13, participants(students)from Asian Rural Institute paid IUHW a visit. ARI participants, from Africa, Sri Lanka, and other places, came to our English classes and talked about their countries and answered our student's questions. Our students learned a lot about the world and wanted to establish friendships with the ARI participants.

Also, we took ARI participants on a tour of IUHW, and they were very impressed with what we are doing to help Japan and the world. A lot of genuine sharing happened on October 13, 1997, and let's hope it continues. Good going ARI! Good going IUHW!

(Kevin Dobbs)

第4回IUHWクイズ当選者発表

多数応募の中から、正解者は5名でした。厳正な抽選により、作業2年の菅井則子さんが第4回IUHWクイズの当選者に決定しました。正解は下記の通りです。回答者のみなさん、ご協力ありがとうございます。

さん、おめでとう。

キリトル

学科	_____	学年	_____
名前	_____		

解説

問1. (2) カメレオンの色は周囲の色に合わせて起こるのではなく、感情、温度、光の強さによって起こる。たとえばカメレオンが怒ると神経からの信号を受けて色素細胞が膨張し、恐怖を感じると逆に縮み、体調も色素細胞に影響を与える。つまり、カメレオンが死んだときの色は敵に襲われて待ったのか、体が弱って自然死したのか、等の条件によって異なる。

問2. (3) イルカは超音波も含めて約700もの発音を持ち、この組み合わせで会話するといわれる。このイルカ語、生まれ育ちやふだん生活している海域によって異なるが、中にはバイリンガルのイルカもいる。たとえば、太平洋の真ん中で見つかったあるイルカは日本よりの海域に住むグループと、アメリカ側に住むグループの両方のイルカ語を身につけていたという。

問1. 黄、緑、黒灰色に色を変えるカメレオン。死んだら何色になるか?

- (1)死ぬときの周囲の色によって違う。
- (2)死ぬときの感情や状況によって違う。
- (3)本来の色に戻る。
- (4)マーブル色になる。

問2. イルカが会話する動物であることはよく知られている。では別々の海域にすむイルカ同士はちゃんとコミュニケーションできるだろうか。

- (1)イルカ語は万国共通だから問題ない。
- (2)普段は地元のことばを使うが標準語もある。
- (3)バイリンガルのイルカが通訳をする。
- (4)ことばの違う海域のイルカ同士は会話をしない。

◇言語聴覚センター

語学聴覚センターに寄せられるニーズ

10月末で、280名を越える地域の方々が、言語聴覚センターを受診されました。言葉の障害にたいするリハビリテーションのニーズがいかに高いかを物語るものと思います。このニーズは、受診者の数にのみ表れているだけではありません。センター開設以来、県内の健康福祉センター（旧保健所）、市町村単位の保健センター、特殊教育関連機関、病院などの医療機関から、健診業務の協力、職員の研修のための講師派遣などの要請がひきもきらず寄せられています。地域のお役にたつのは嬉しいことですが、忙しさに頭をかかえているのも事実です。

(大石敬子)

編集後記

短かった秋が終わりキャンパス内にも冬が訪れています。キャンパス内の木々の葉はすっかり落ち、遠くの山々はうっすらと雪化粧をしました。今年も早いものであとわずか一ヶ月となりましたが、皆様にとってどのような一年だったでしょうか？

さて、今年最終号となった17号では大学祭関連の記事を数多く掲載いたしました。文字が小さく読みにくくなってしまいましたがなるべく多くの学生の皆さんに執筆していただきました。そのかわりに紙面の都合上、教員紹介のコーナーをお休みさせていただくことになり関係の先生方には大変御迷惑をお掛けいたしました。この場をお借りしてお詫びいたします。

(齋藤昭彦)

リレーエッセイ

loving touch

医学教育センター 黒澤 美枝子

もうだいぶ前のことですが、以前の私の上司が、タイムという英文誌の切り抜きを見せてくれました。それは、母親から隔絶された子供をなでたり触ったりすると、何も施さない子供に比べて成長が促されるため、アメリカでは母親から隔絶された状況下にある未熟児に触刺激を実際に用いているというものでした。母親あるいは母親代わりの養育者が、子供をなでたり触ったりする刺激のことをloving touchというのだそうです。ラットやサルを用いた実験においても、触刺激から、隔絶された仔の成長ホルモンの分泌を促しストレスホルモンである副腎皮質ホルモンの分泌を制御することが証明されています。

毎日私たちは無意識に物や人に触れ、或いは触られています。大部分は意識にすらのほりません。しかし、その情報量は膨大であり、私たちの身体の機能の調節に重要であるに違いないと考えられます。患者さんにやさしく手を触れ、触れた人、触られた人双方の身体に起こっているかもしれない未知の効果と一緒に考えてみませんか。

次回執筆：溝口昭子（語学教育センター）

IUHWクイズ ー第5弾ー

賞品はなんと全国共通遊園地券をペアで！

昆虫好き？のあなたに贈る「とっておきクイズ」 ～君もファールにならないか！～

問題は4択5問、解答番号を書き込み、事務局窓口外側のメールボックスへ。全問正解者の中から抽選で1名に全国共通遊園地券をペアでさしあげます。応募資格はIUHWの学生で、1人1通、締切は12月30日。

キリトル		キ リ ト ル
学科	学年	
名前		キ リ ト ル
解答		
問1.		
問2.		
問3.		
問4.		
問5.		

問1. 古代エジプトでは、太陽神の化身として崇められたスカラベ（フン虫）は、どのようにしてエサを運ぶか？

- ① 前足で転がして運ぶ。 ② 口にくわえて運ぶ。
- ③ 後ろ足で転がして運ぶ。 ④ 背負って運ぶ。

問2. チョウと関係のないものはどれか？

- ① 芸者 ② サムライ ③ 大名 ④ 忍者

問3. チョウと関係のないトリはどれか？

- ① カラス ② タカ ③ クジャク ④ ツバメ

問4. チョウと関係のない地名はどれか？

- ① シマネ ② ギフ ③ ナガサキ ④ サツマ

問5. チョウと関係のない山はどれか？

- ① アサマ ② フジ ③ キリシマ ④ ナスタケ